

DOJIN  
R18  
成人向け  
18歳未満の  
閲覧・ダウンロード  
厳禁



# 思おまい新紀事編



「ああ、おち○ちんいっぱい！ー！どんなおしおきされちやうのか  
両奈ちやんどキドキしちやう♡」













「ご主人様のあつつあつのミルクがこーんなに…  
両奈ちゃん幸せ♡」

はあ…♡

はあ…♡

とろ♡

びゅん♡

とろ…♡

とろ…♡

たーらあ…♡





「わんわん！ご主人様、いけない両奈わんちゃんに  
きつーいおしおき、たくさんしてください♡」



「両奈わんちゃん、おっぱいもほっぺもぜーんぶご主人様のものです。好きなように使ってください♡」





「はぁらん♥ザーメンいっぱいっさい♥」





「ご主人様のザーメン、美味しい♡  
でも両奈わんちゃん、まだまだ  
おしおきされ足りないかも♡」



「あん♥ご主人様、両奈ちゃんのおっぱい  
もつと乱暴に使つて良いんですよ♥」

ぐわん  
しゅん

にゅん

あはっ

ぎゅん  
ーゅん

♡





「そうそう！おち○ちんで両奈ちゃんのだらしない  
おっぱいにいつぱいおしおきして♡」

おっぱい♡

あ♡

あ♡

あ♡

あ♡



「はぁ〜ん♡いっぱい出た〜♡」

んはっ♡

んはっ♡

グッ♡

ズッ♡  
グッ♡  
ハッ♡

ズッ♡  
グッ♡  
ハッ♡



「両奈ちゃんご主人様のザーメンまみれになっちゃった…幸せ♡」



どろお...♡♡

ほお...♡

ほお...♡

ほお...♡

どろお...♡♡



「どう、両備の胸は？小さくたってち○ぽくらい挟めるんだから！」





「情けない顔して腰振っちゃって…ほろろっさと射精しちゃいなさい！」



「あは！出たでた！」



あはっ♡

ズンッ  
ズンッ  
ズンッ

♡  
♡  
♡

ズンッ

あはっ♡

ズンッ

♡  
♡  
♡  
♡  
♡

ズンッ





「こんなに出して…両備の胸、相当気持ちよかったみたいね」







「ほらほらもつと腰を振りなさいー!」



あは♡

んほっ♡

ぬっぷ♡

す♡  
す♡  
す♡

す♡  
す♡

す♡  
す♡

す♡  
す♡  
す♡  
す♡

す♡  
す♡

す♡  
す♡



「あはっ♡」

あはっ♡

ズッ♡

ズッ♡

ズッ♡

ズッ♡

ズッ♡

ズッ♡

ズッ♡







「うわ…忍装束が精液でべとべと…男って本当に爆乳が好きみたいね」

ほあ♡

ほあ♡

ぐん♡  
ぐん♡

とろ♡  
ま♡

とろ♡  
とろ♡



「特別に今回だけは両備が動いてしごいてあげるわ  
イかなかつたら承知しないわよ！」



ふっふっ

ズンズン

ふっふっ

ズンズン



「ごうやって締めあげて、上下にごすっつていれればいいだけでしょ？  
簡単じゃない！」







んあっ

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん



「ふふん…こんなに射精して…そんなに両備のおっぱいが良かったんだ」

とろろお…♡

ほあ…♡

ほあ…♡

とろろお…♡

びくっ♡

だらあ…♡







「ちよっ！何腰振ってんだ！やめろ！」



「うわっ!」





「うう：酷い臭い：顔にまで：  
貴様覚えていろよ：」



「なんでそんなに胸に拘るんだ貴様は…」



ゴッ



「んっ…ほら、ちっさちっさと腰をうごかせっさちっさと終わらせろ…」









「くっ…相変わらずひどい臭いだ…」





「ん…ほんと胸ばかり…  
さうとうのモノ好きだな貴様は…」



「んはあっ！」







「毎度毎度すごい量だな…体中精液だらけじゃないか…」



「あの…わたしこうゆうことするの初めてで…  
上手くできていれば…良いのですが。」





「胸でっしゅきあげる…っしゅっしゅでっしゅっか?。」



「あ…何か、たくさんでてきました…」

んんん

ズッ  
ズッ  
ズッ

ズッ  
ズッ  
ズッ

ズッ  
ズッ





「すごい量…あ、あの…気持よかったでしょうか？」

は…は…  
とろお…

とぽっ

キラキラ

は…は…







「ん…(おち○ちんのが熱が伝わって…)  
なんかへんな感じ…」







「胸の中が…精液で満たされてしまいました…  
溢れ出したのも…こんなに」

ひあ

ひあ...♡

しゅ...♡

どろろ

どろろ...♡



「あ、あの…私一人じゃあこんなにくささんのお相手…  
できないと思うのですが…」







「ん…あっし…」



お…っ♡  
んっ♡  
んっ♡  
んっ♡  
んっ♡

んっ♡  
んっ♡  
んっ♡  
んっ♡  
んっ♡

んっ♡  
んっ♡  
んっ♡  
んっ♡  
んっ♡

んっ♡  
んっ♡  
んっ♡  
んっ♡  
んっ♡



「体中精液だらけ：みなさんに気持ちよくなって  
いたただいたらよかったです：」



ほぁぁ♡

ぬちゅ  
ぬちゅ

ほぁぁ♡

とろお♡

ぐ♡  
ぐ♡

だらぁ♡



「く…貴様…こんな真似をして  
ただで済むと思うなよ…」







「ん…なんのつもりだ！  
そんな汚いものを押し付けるな！」



「んはあ！」









「くっ：なんで私が貴様の性処理の相手をしなければならぬんだ：」

くっ  
いっ♡

にゅる♡

ザッ  
うん♡♡

んっ♡

んっ♡





「ん…いつまで腰を振っているつもりだ  
早く済ませてそこをどける！」







「うう...すごい量...  
もう満足したろう...早くそこをどけ！」



「ドレスまで着せておいてやることといえばコレか…」





「ん：そんなに激しく突くな…  
胸が壊れてしまう…」







「こんなに出して…せつかくのドレスが  
台無しじゃないか…」

どろお…♡♡

ん♡♡♡

ん♡♡♡

ぬるん…♡♡